

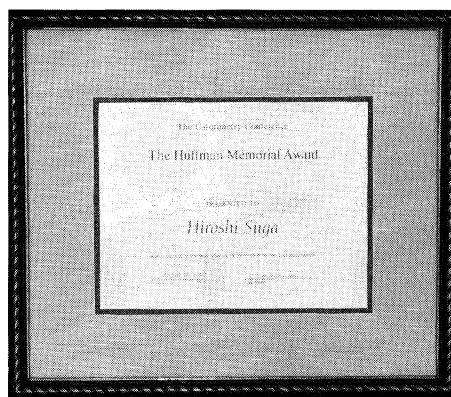
菅 宏教授, Huffman記念賞を受賞

本年8月, 米国ユタ州のスノーバードで, 第12回 IUPAC 化学熱力学会議と第47回全米カロリメトリー会議が共同開催された。IUPAC 会議への日本からの出席者は回を重ねるごとに増えており, わが国における化学熱力学研究の旺盛さが窺え, 同慶のいたりである。

さて今回, 日本人参加者にとってひときわ誇らしく思われたのは, 当マイクロ熱研究センターのセンター長である菅 宏教授が全米カロリメトリー会議の Huffman 記念賞を受賞されたことである。この賞は, 全米カロリメトリー会議の設立者でもあり偉大な熱化学者である Hugh M. Huffman 博士を記念して1950年に設けられたものである。毎年一人だけが選ばれる名誉あ

る賞であり, これまでに39名が受賞している。本来は北米大陸を対象としたものであるが, 当然のごとく何名かは欧州からも選ばれている。今回40人目の受賞者として初めて日本人が選ばれたのは異例のことであり, それだけ菅教授の業績が卓越していた証と言えよう。

受賞の対象となった研究は「乱れた系の秩序化過程」であり, 菅教授のライフワークそのものである。授賞式は8月20日に行われ, 全米カロリメトリー会議の組織委員長であるオークリッジ国立研究所の J. M. Simonson 博士から Huffman 記念賞が授与された。引き続いてブリガムヤング大学の Juliana Boerio-Goates 教授による菅教授の経歴と業績紹介があり, “Frozen-in Disorder and Slow Relaxation in



Crystals” の題のもと, 受賞講演が行われた。膨大な研究に対して40分はあまりにも短すぎたが, 手際良くまとめられ, 大ホールを埋めた世界からの熱化学者に大きな感銘を与えた。講演終了後, 菅教授は Juliana から祝福のキスを受けられ, Pitzer 教授 や Westrum 教授をはじめ演壇につめかけた多くの人々とお祝いの握手を交わされた。晴れの舞台とはまさにこのような光景を

さすのであろう。心からのお慶びを申し上げたい。

(徂徠道夫記)

(追記) 菅教授がHuffman記念賞を受賞されたことが、読売新聞、毎日新聞、科学新聞にも報道された。科学新聞の記事をここに収録した。

科学新聞

1992年(平成4年)10月9日(金曜日)

熱測定分野のハフマン賞

阪大菅教授が受賞

アメリカの熱測定学会である、一九九二年度アメリカ・カロリメトリー会議が、八月十六日から三十一日まで、アメリカ・ユタ州スノウバードで開催され、大阪大学理学部・菅宏(すが・ひろし)教授(日本熱測定学会会長)が、同

華の歴史のある賞で、菅教授の受賞対象となった研究が、独創的なものとして高く評価されたことを意味するものである。



菅 宏・阪大教授

会議の学会賞「ハフマン記念賞」を受賞した。

受賞の対象となった研究は、結晶やガラスを構成する原子や分子のゆっくりとした運動を、熱測定の方法で極めて高い精度で測定することに

といわれるように、熱測定における世界的な研究者の一人であった。また、一九四六年にアメリカ・カロリメトリー会議が発足するとき、その中心となった研究者の一人であり、三年にわたり初代会長を務めた。

ハフマン記念賞は、菅教授を含めて、今日まで四十人の研究者が受賞している。反応系、非反応系、固体、液体、溶体、生体、高温、低温など、熱測定分野における顕著な業績をあげた研究者の名が見られる。また、受賞者の大半はアメリカの研究者であるが、カナダ、イギリス、スウェーデン、オランダ、ドイツからの受賞者もあり、現在では、カロリメトリー会議が国際的学会に発容するにともない、ハフマン賞も世界的な賞となった。今回の菅教授の受賞は、アメリカとヨーロッパ以外の地域から最初のものである。